

河川工作物アドバイザー会議の経過報告・今後の予定

1 平成25年度（2013年度）河川工作物アドバイザー会議の開催状況

平成25年10月28日～29日 第1回会議開催（現地検討会等）

○主な議題

- ・改良後のダムの状況について（羅臼川砂防ダム）
- ・グレーダムの今後の取扱いについて
- ・長期モニタリング項目の評価について
- ・今年度のモニタリング実施状況について

平成26年2月24日

第2回会議開催（札幌市）

○主な議題

- ・今年度のモニタリング結果について
- ・長期モニタリング項目の評価について
- ・今後のダムの改良について
- ・第36回世界遺産委員会決議に係る今後の対応について

2 河川工作物改良の第2次検討

改良に伴う防災機能等への全体的な影響が大きいため現状維持と評価した35基について、今年度から具体の検討を開始

（会議での論点）

- ・サケ類を遡上させるだけでなく、今後はダム区間の産卵環境を造ることや、海と陸の相互作用等の生態系としての河川のあり方といった視点が必要。
- ・最下流のダムで大量のカラフトマスが止められているモセカルベツ川、ケンネベツ川、ショウジ川が、改良の優先度が最も高いのではないか。
- ・アイドマリ川は、ダム改良によりカラフトマスの自然産卵を拡大できる可能性があるが、最下流部の民間の堰との兼ね合いもある。
- ・クマと人との接触機会を減らすためにも、人家や道道近くでサケ類が滞留しているダムを優先的に改良した方が良い。

3 今年度のモニタリング調査実施

長期モニタリング計画及び第36回世界遺産委員会決議を受けて昨年度見直したモニタリング計画に基づき、以下の調査を実施した。

（1）イワウベツ川（赤イ川、ピリカベツ川）、ルシャ川、テッパンベツ川、羅臼川、サシルイ川、チエンベツ川、ルサ川においてサケ類の遡上状況等調査。

今年度はカラフトマスの豊漁年であったことから各河川において多くの遡上数を確認することができた。

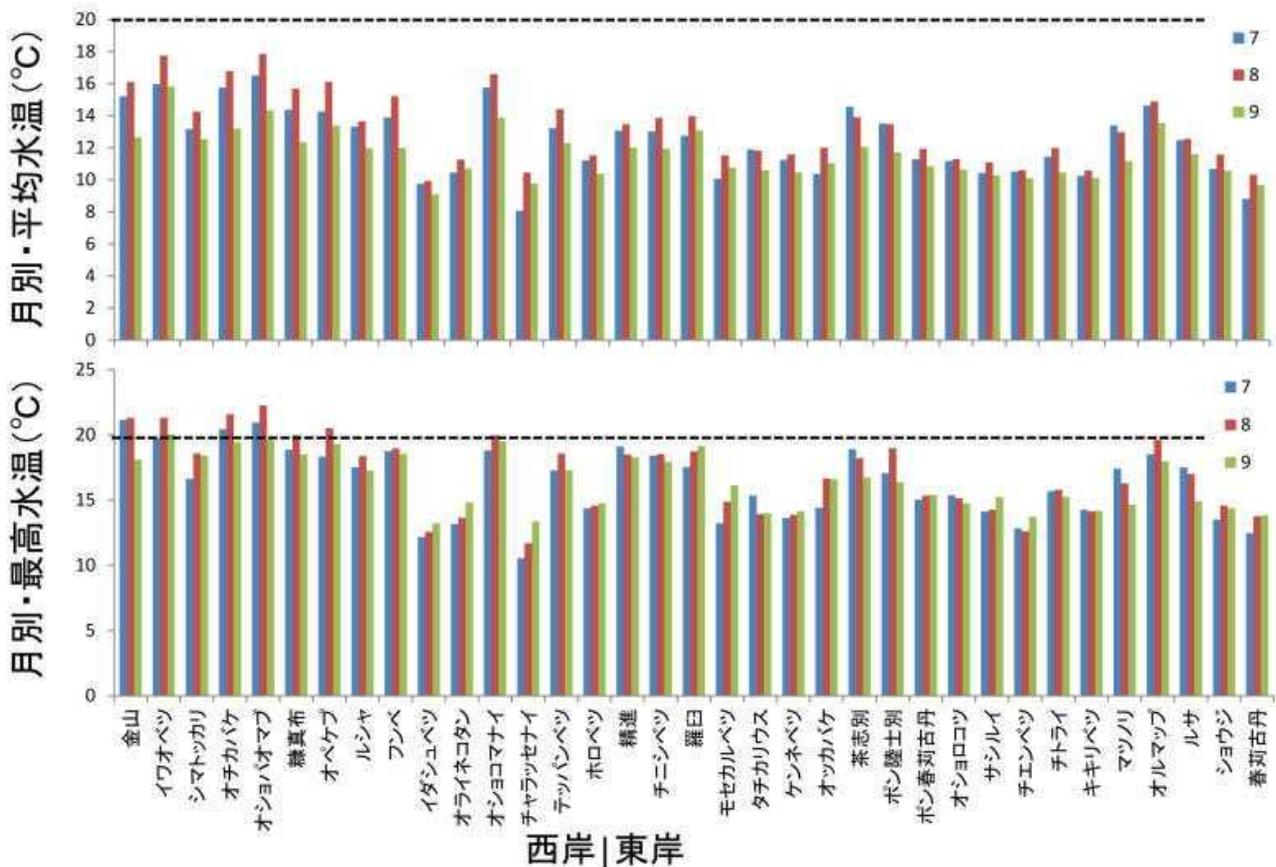
例えばルシャ川においては、次のとおりの結果であった。

年	産卵床数 （個）	産卵床密度 （個/m ² ）	推定遡上数 （AUC 推定値）	産卵床数／遡上数 （％）
H18（2006）	1,793	0.016～0.061	58,000	3.1
H19（2007）	3,256	0.027～0.120	36,000	9.0
H20（2008）	2,271	0.009～0.087	10,000	22.7
H24（2012）	376	0.003～0.026	19,905	1.9
H25（2013）	1,805	0.033～0.067	58,236	3.1

(2) 8河川においてオショロコマ等の生息状況調査。また、6月末に36河川にデータロガーを設置し、水温の計測調査。

今年度実施した水温の計測結果は次のとおりであった。

2013年度河川別 7・8・9月の平均水温と最高水温



4 第36回世界遺産委員会決議に係る今後の対応

(1) 決議文 サケ科魚類の移動と産卵の状況のモニタリングを継続

この決議を踏まえて昨年度変更した次のモニタリングを実施していく。

河川名	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H29 2017	H31 2019	H32 2020
イワウベツ川													
赤イ川	▲	↔	★	▲	▲	↔	↔	↔	◎			◎	◎
ピリカベツ川		▲▲	↔	↔	↔	↔	↔	◎	◎			◎	◎
ルシャ川	●●	↔	↔	↔			☆	☆	◎	☆	☆	☆	◎
サシルイ川		●●	↔	↔	↔			◎	◎			◎	◎
チエンベツ川			●	●	↔	↔	↔	◎	◎			◎	◎
羅臼川				●	↔	↔	↔	↔	↔	↔		◎	◎
テッパンベツ川							☆	☆		☆	☆	☆	
ルサ川							☆	☆		☆	☆	☆	

▲：改良工事（北海道森林管理局） ★：改良工事（斜里町）
 ●：改良工事（北海道庁） ↔：改良効果モニタリング期間（当初）
 ◎：改良効果モニタリング（追加） ☆：長期モニタリング（遡上数等）

注1) ルシャ川ほか2河川のH24は試行的な実施

(2) 決議文

サケ科魚類の移動と産卵を確保するために、ルシャ川において、必要に応じて、他の適切な手段を含む河川工作物のさらなる改良を行うことを検討

ルシャ川ダムの取り扱いについては、2015年2月1日までの回答に向け関係者間での協議を進める。

5 今後の会議開催予定

第1回 現地検討会：2014年9月～10月頃

第2回 2015年1月頃